

# 改正入管法が成立

## 難民申請中の送還停止制限

外国人の収容・送還のルールを見直す改正入管難民法が九日、参院本会議で、自民、公明、日本維新の会、国民民主各党などの賛成多数で可決、成立した。入管施設の長期収容解消を目的に、難民申請中の強制送還停止を原則一回に制限する。本国で迫害を受ける恐れがある人を帰してしまふとの懸念は根強く、立憲民主党と共産党は反対し

た。公布後、一年以内に順次施行される。=核心③面、論説⑩面、関連⑩面  
入管当局は、送還を逃れる意図で難民申請を繰り返すケースが多いとしており、不法滞在などで強制退去を命じられても送還を拒む外国人の退去を進めるのが改正の狙い。二回目の申請以降は「難民認定すべき相当の理由」を示さなければ送還する。送還を拒み航

空機内で暴れるなどの行為は、刑事罰の対象とする。収容長期化を防ぐため、「監理措置」を新設し、支援者ら監理人の下で社会での生活を認める。収容中は三ヶ月ごとに必要性を見直す。また、認定基準に満たなくとも、紛争地域の住民らを難民に準じる「補完的保護対象者」として在留を許可する。ウクライナ避難民らが想定される。

不法滞在で入管施設に収容された外国人の拘束を一時的に解く「監理措置」を新設

施設収容中は、3カ月ごとに収容の必要性を見直す

難民認定に至らないものの、準じる立場の人を「補完的保護対象者」として在留を認める

送還を拒み航空機内では暴れるなどの行為には刑事罰

二〇一二年の通常国会にも改正案が提出されたが、名古屋出入国在留管理局で同年三月、スリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリさん(当時33)が死亡した問題を巡って与野党が対立し、その後廃案となつた。

## 改正入管法成立

# やじ応酬 本会議騒然

**市民ら怒号「不当採決だ」**

改正入管難民法が可決、成立した9日の参院本会議では賛成、反対それぞれの立場の議論がやじを応酬し、騒然とした雰囲気になった。雨が降つたりやんだりする中、最後まで廃案を認めない市民ら百人以上が国会前に集まり、「外国人の権利を守つて」と抗議の声を上げた。賛成多数で可決されたと知ると「不当な採決だ」と怒号が飛んだ。

—●面影照



改正入管難民法が成立し、遺影を手に取材に応じるウイ・シユマ・サンダマリさん=9日午後、国会前で

採決に先立ち行われた刑  
法などの改正案の審議。質  
疑に立った社民党の福島瑞  
穂氏は圓頭、「入管難民法  
改悪法案を成立させようと  
している」と強く抗議す  
る」と主張。議場からは  
「そうだ」と同調する声が  
上がる。

正午を過ぎてから始まつ  
た入管難民法改悪案の審議  
で、反対の立場から討論し  
た立憲民主党の石川大我氏

が「成立すれば、(外国人  
が)投獄や拷問が待つてい  
る母国に強制送還される」  
と批判。拍手が起つると同  
時に、与党側からは非難す  
る声がやじが響く。続い  
て、日本維新の会の首裏多  
勝氏が賛成討論で「外国人  
の人権と国民の安全を守る  
法律だ」と主張すると、今  
度は野党席の議員が「分か  
っていない」と叫んだ。

傍聴席には名古屋出入國  
在留管理局で収容中に死  
したスリランカ人女性ウイ  
・シユマ・サンダマリさん=  
当時(33)=の遺族の姿も。  
當時(33)=の遺族の姿も。  
成立了見届けると、ぶせん  
とした表情で議場を後にし  
た。

国会前に集まつた人たち  
は「改悪阻止」「廃案に」  
などと書かれた横断幕やブ  
ラカードを手に、何度もシ  
ュアレピコールを上げた。  
川崎市高津区の島田浩史さ  
ん(左)は「人権に国籍はな

い」。千葉県市川市の会社員  
新妻基行さん(左)も「送還  
されてしまつたら命が危ぶ  
まれる人がいる」と憤つた。  
—●面影照

夕方にも参院議員会館前に  
数十人が集まり、「外国人  
の権利を守るために声を上  
げ続けよ!」などと訴えた。